

# 平成29年6月定例教育委員会議事録

(白石町教育委員会会議規則第16条及び第17条の規定により作成)

- 1 日 時 平成29年6月26日(月) 午前10時 役場3階会議室4
- 2 出席委員 北村教育長 稲佐委員 大串委員 下田委員 松尾委員
- 3 事務局職員 吉岡学校教育課長 千布生涯学習課長  
石橋主任指導主事 中村指導主事 瀬戸学校教育係長  
原学校教育係長 川畑庶務係長  
土井白石公民館係長
- 4 前回議事録の承認  
5月定例教育委員会の会議録 【原案どおり承認】
- 5 教育長の報告 別紙資料のとおり
- 6 会議に付した議案  
付議17号 白石町教育功労者の推薦について
- 7 動議の提出者 なし
- 8 議事の概要 別紙資料のとおり
- 9 議決事項 付議第17号議決
- 10 その他
  - ・事務局からの報告
  - ・傍聴者 なし

1 開 会 9:58～  
吉岡学校教育課長

2 前回議事録の承認 9:58～  
5月定例教育委員会の会議録を資料により説明  
委員の確認のための発言内容を一部削除  
**委員全員承認**

3 教育長報告 9:59～

今回、マスコミ等で報道をされたが須古小学校のプールの件では多くの生徒が肌が“ちくちく”するという事で対処をしてもらった。新聞報道のごとく強化プラスチックの劣化によりガラス繊維が表面に出てそれが“ちくちく”していた。合併前に業者からはご連絡はあったようであるが、その時に交換ができていなかった経緯もあるようです。業者の方もしっかり対応していただき、今週から通常の使用ができるかと思っている。

それから議会もおかげさまで無事終了しました。9日から16日まで、この件についても後だって報告させていただきます。

(前回以降の主な動向)

- ・6/2 福富中学校が県食育賞を県下で唯一受賞の報告会
- ・6/3 おおどぼう倶楽部がスタート(町内小学生35名:計8回)
- ・6/10 須古小学校の新聞報道(プール)早急な対応と解決が見れた  
(問題行動等報告)

・5月の問題行動 報告なし

・いじめ問題 小学校 1件(4年生男子)認知  
認知(からかい、ぶつかる、一部蹴る殴る)

中学校 1件(1年生男子)認知  
認知(悪口、冷やか)

重篤にならない初期の段階で早く見つけて対応していただいている。今のところは、学校に登校しないということもなく解消できている。一応3カ月は、様子を見て3ヶ月間何も問題がなかったら解消ということになりますので十分指導もお願いしている。関係性がうまくいってないところには敏感にアンテナを立てて、すぐに関わりをしていただくことが肝心ということで、校長にも繰り返しそういう対応を依頼をしている。

- ・不登校  
小学校 1人（完全不登校）少しずつ改善している。  
中学校 18人（改善11件、登校3件）  
欠席はないが、なかなかなじめない、また、相談室登校であるという状況でもある。とにかく自信を持って学校に登校できるようにしっかり関わっていただくということを願って関わっていただく。

（町議会6月定例一般質問）

- ・8名の議員の方が一般質問を出された。その中で教育委員会関係は3名の議員がそれぞれ質問。大きくは、小中学校のトイレの洋式化について、小中学生のスポーツ活動について、ICTの利活用とプログラミング教育についてということで質問を受けた。

#### トイレの洋式化

現状、小学校32%、中学校23%、本町全体29%、佐賀県37%で少し県より下回っている。当初、洋式化を行ったとき、広く全町的に働きかけをして厳しい予算の中で対応をした。今後は、今のところ子どもたちからは、洋式トイレが足りないという声は出てきていない。ただ、学校施設を使用される方が高齢化してきた。ということで、もう少し洋式化が必要だという意見が出るのはわかるが、今後、特に子どもたちの状況を確認しながら、もっと安心、安全というのが最優先になるため、そういう状況を踏まえながら少しずつ必要な分については、整備を進めていく。

#### 小中学生のスポーツ活動について

社会体育のあり方や意義、その辺りは申すまでもないと思います。健全育成、たくましく生きる力とか社会性とか、チームの一員として友達のことを考えると色々あるが、その中で、実は本町内のスポーツ少年は28団体、395人の登録がある。少年野球とかバスケットとか色々ありますが、そういった中で町としても指導者の研修会、活動費の補助、九州大会とか全国大会に出場した時の激励金、こういった補助はさせていただいております。それから中学校の部活動についての質問がありました。まったく未経験の部活動の顧問を務めるということについては、非常に心理的な負担も強いられるという声があるのも事実である。未経験者の中には、就職前に文化部もスポーツ部も全く経験がないという方もいらっしゃる。そういったことから今話題に出ている部外者の活用等を図るということの質問だったが、今3つの中学校で33の部がある。その中で、経験しているという顧問の先生は20部活で61%、経験していませんという方が13部で39%いらっしゃる。ただ、ご承知のように中学校の部活動は、教育課程の一環として他の教育課程と連携を組み合わせながらということで、学校の教育活

動の一環ですから、一般のクラブチームとは違う。そのため競技力の向上、技術的な向上だけではなく、学級経営と同じで豊かな人間関係を育むとか、社会性を育むということがあるため、経験、未経験は直接関係ないと思う。人事異動もそのことを主眼として動いていない。教員採用もどんなスポーツをやっていたか？ということも第一義に問われる問題でもない。しかし、子ども達のより良い成長のためには、より優れた指導がなされるということは、より良いことですので町としても学校外指導者の派遣を行っている。今のところ白石中学校で陸上と卓球、福富中学校で卓球に2人と野球、バスケット、有明中学校にバスケットの計7名の方の部外指導者を派遣して行っております。1校につき年27回、2人いらっしゃるところは、2人で27回やり繰りをしていただくということで年27回の指導、1回当たり2,650円の手当を確保してやっている。これに基づいて、新聞紙上でも出てきている部活動指導員、単なる技術指導だけではなく指導者として引率も可能です。勿論ベンチにも入れますというきちんとした指導員をとということであるが、その導入についての町の現状はいかがですかということですけど、今のところ町としても動いておりません。このための色々な規則の整備、県としても今やられている。はたして人材がどれほどいらっしゃるか、それから手当の問題とか色々な問題がありますので、今県としても検討中ですので、そういうものと連携を図りながら考えていかなければならないと思います。教職員の業務の多忙化ということも大きな問題になっていますので、出来ればこういった制度を積極的に活用する方向では思っている。自分自身も有明中学校の時にソフトボールを部活動から外して、今、社会体育にお願いしているが、その時に小規模化する学校での部活動の運営はもう限界だという判断をした。小さくなる一方で、教職員もどんどん少なくなる。だから広く学校だけではなく地域の方で賄っていただければと思い指導者の方について、役場、地域の色々な方に相談して探したが、実はいらっしゃらない。やりたいという方はいらっしゃるが、やはり仕事の問題で勤務終了の時間からでよいかとか、いらっしゃるが、中学校の部活の時間帯にという方はいらっしゃらなかった。今後この人材をどうして発掘するかということが、制度としては非常にわかるが難しいと思います。幸い何とかやってみますという方がいらっしゃり、今も頑張ってもらっているので続いている。そういう状況を答弁させていただきました。

#### ICTの利活用とプログラミングについて

ICTについては、佐賀県は全国でもいち早く整備が進められて、その中でも白石町は県でもトップを切るような整備を早い時期から進めていただ

き、電子黒板等の利用は早い時期から有効活用をしていただいている、学校訪問とかでも見ていただいて、ごく自然に使っていただくレベルまでなっていると思う。ただ、その課題はということですが、何でもかんでもICTではなく、これは一つのツールなので、昔、いわゆる、図版とか掛図とか紙芝居でやっていた部分を電子黒板でやるのと全く変わらない。一つのツールですので、実際は映像より本物を見せた方がいいとか、あるいはきちんとノートに取らせなくてはいけないとか、画面ばかり見せていてはだめといったことがありますので、やはり一つの学習のツールとしての有効活用というのは、まだまだしっかりと配慮してもらいたいと思います。特にこういった機器の上手な方は何でもかんでもICTを使おうとされますので、子ども達にとっては「どこの部分をノートに取ったらいいいんですか先生。」あるいは、「実物を見せてもらった方がよくわかります。」というような声も実際あるわけで、その辺りについては、配慮がもう少し必要だと思います。それから、プログラミング教育が今度の新しい学習指導要領の中に盛り込まれています。これについても、どんな課題がありますかという質問がありました。小学校でプログラミング教育を進めるようにということが入ってきています。ただ、このための特設の指導時間というのはありません。教科の中で、例えば理科とか算数の時間とかそういった中で数時間、時間を取って進めてもらえませんかということ。プログラミング教育というと、いわゆるプログラミングそのものを勉強するのかという誤解が絶対発生すると思う。いわゆるコーディングという問題です。例えばC言語とかベシクを組んで図形を動かすとか、そういう専門的なことをやる。そうではなくて、コンピュータというのは、人間が指示をしたように動くんですよ、というのを体験的に学ぶという学習です。だから人の使い方によってどうにでもなるんですよ、ということ子ども達に体験的に学ばせるということが入ってきている。ですから、例えば算数の図形の時に簡単な指令でサークルを描かせるとかその程度のものです。時間もありませんので、ただ、なんせ初めてですので指導者側としては、非常に敷居の高い、意識的にもです。どうすればいいのかと先生方の声は当然出てきますので、計画的な研修というのを進めていく必要がある。それだけが課題だと思います。以上が6月議会の報告です。

(杵西・藤津地区教育長会)

- ・ 県のスーパーティーチャー

色々な学校に出向いて、模範授業を実施したり校内研究の指導助言に当たられるとかで動かれている。

- ・ 現職教員の大学院への派遣

来年度は県が兵庫教育大学とか鳴門教育大学とか県外ではなくて、県内で、佐賀大学で行ってくださいということです。将来のキャリアを伸ばしたい方は是非。今回もう募集は終了しております、今回白石町の募集はゼロでした。

- ・ 小学校の英語指導力の向上研修

ご承知のように今度3・4年生で週一コマ、5・6年生で週二コマ新しく入ってきますのでその分での研修も少しずつ進められているところです。

- ・ 特別支援学校における転入学相談

特別支援学級もどんどん、どんどん増えており色々な種目の学級も今年度開設されており、この相談等の充実を図っていただく必要があるが、相談の実施日等示されている。

- ・ 県の標準様式によるいじめアンケート

年に2回実施していたものを年に1回にしますということで、その様式等も示されています。県全体の状況を比較。町内はほとんど毎月1回程度で実施していただいている。特に中学校は、生徒指導協議会を全職員でもって、こういうアンケートで出てきた子ども達について情報交換をやってもらっているの、色々な授業でどうか部活でどうか、あるいは心配な子はだれが中心になって関わりあうか、顧問にお願いしようとか学年主任にお願いしようとかいうことでやっていただいている。この標準様式のアンケート結果の中に入るといことは、白石町としてはないと思いますけど、一応県全体としては、こういったアンケートを実施されます。

- ・ 多忙化対策検討会

文科省とか県の教育委員会とか市町教育委員会の多忙化への取り組みについてということで、色々出たものです。調査を少なくしようとか、あるいは色々な調査をいっぺんにまとめてやろうとか、研修を精選しようとかいうことで色々やられてますけど、もう、ちょっと出つくして、本町の委員会としても検討委員会をもつようにしているが、なかなか有効な案が出尽くして、よっぽど大きな枠組みが変わらない限りはこれ以上大きく多忙化解消を図るといことは、難しいところまで来ています。そういった中で、どんどん、どんどんスクラップアンドビルドと言いますが、スクラップないままに、ビルド、ビルドで来てますので、ちょっと色々な、今までなかったような課題意識等が色々な教育雑誌とかにも今までなかったような頻度で出始めています。

- ・ 新聞記事

県の採用予定者257人、受験年齢が49歳まで伸びた。

教員の長時間勤務解消へ

最新の教養採用試験の結果、4.6倍過去20年で最低。年齢が満39歳から49歳まで引き上げになって40代の方の受験者が110人いらっしゃった。ただし県外から10人くらい入っていたので、県内100人くらい入られても最低というのは、若い方が希望されていないということになる。特に小学校の倍率が2.6倍になった。昨年が2.9倍でした。3倍を切ると優秀な方を求めることが難しい。どの世界でも3倍というのが一つのリミットのラインです。教育界離れが少しずつ進んでなければいいかなあという危惧を個人的には思っている。高校当りはまだかなりの倍率が残っている。昔は佐賀県でも小学校で10倍くらいあった。この件で佐賀大学の教員養成課程では、高校生の将来教員を目指そうとしている子ども達へのセミナーを計画されている。そういうことも少しずつ実施されています。もっと根源的なことをやらないと小手先だけでは色々な問題が解消できないところまで来ているのではという思いがあります。

大分県の公立中学校の先生の過労死問題がありました。時間外110時間が3カ月続いておられる。厳しいかなあと思っております。本町は勤務時間をタイムカードでやっております。毎月教頭先生が打ち出しをして先生達の状況を逐一、追跡されてまして、80時間、100時間というのはとんでもない時間ですけど、1回でも100時間を超えていたら、どうしてだろうということで、管理職が指導をするようになっていきます。この方は、3カ月というのは、普通ではありえないと思うが、管理職の方の職員への指導についても問われるのではと思います。少なくとも10年前はこういう話題は一笑に付されていた。公務員でそのくらい頑張るのは当たり前、会社員の我々は、まだまだ頑張ってます、何を甘えたことをと、言われていた。多忙化の問題は今出てきた問題ではなく労働安全衛生法が出る前から言われてきていた。勤務の把握をきちんとしなさいと。しかし、今そういうのが消えてしまって、過労死とかの問題が出てずいぶん変わったなあと思っています。

大学入試、今センター試験を変えようということで、色々な検討がなされているが、英語の試験に民間の試験を使おうと本気で考えておられるというニュースです。国際標準規格で話すというのを民間の試験結果で、年2回受けられるようにやられようとしております。公正さなどが担保できるのかというのが課題と言われているがこういう動きがあるようです。

稲佐委員：質問というよりも議会の答弁で全く同感だと思いました。中学校の部活動についての質問があったようですが、なかなか中学校現場に

においても適材適所というのは難しい。ですから教育長さんの答弁のように教育活動の一環として、人間教育を中心にしていくということを根底におかないと競争競技だけで強くしろ、強くしろと中学校の段階からやっているは大変である。最近マスコミ等では、卓球のAさん、Bさん、Cさんといった人達は幼少のころからどんどん、どんどんやって、そういうスポーツエリートの学校に行って金メダルを目指すということが、どんどん、どんどん報道されてますから、ついつい普通の人達もそしたら我が子もとそういう風になりかねない、そういうこともあるかもわかりませんが、やはり私は、公教育の立場としては、やはり人間教育を中心としてやっていくということにしていかないと、なんでも競争競技としてやっていっては技術だけが優先して人間教育ができなくなるわけです。フランスの空手家の女性ですけど、ハンネル・マルカラという人ですけど、沖縄の空手を学びに行ったそうです。何も技術を教えなかったそうです。何を教えたかという瞑想をして、腹式呼吸を教えて、それは素晴らしいことだと、フランスでは勝つことだけしか教えないということで、大変感銘して帰えられた人です。その人が世界チャンピオンになった選手ですけど、そういう彼女も相当勉強して帰ったということで、やはり人間というものは、そこが最後だろうと思います。目的だろうと思います。何もチャンピオンになることが目的ではなくて、そういう教育をしていかないと、何か頂点に立つことだけが持ち上げられてマスコミでもあれされてしまいますが、そういう動きそのものがどうかなあと思うし、私は先ほどの教育長さんの答弁で十分であったと思います。

下田委員：ご報告いただいた、いじめのことですが、冷やかされたり、なんなり、一方では被害という表現をされてますけど、あったという、認知、覚知の報告を頂いているのですが、冷やかされた被害とされた子どもさんに何らかの障害か課題を抱えたということはなかったか。別に健康だからいじめ大丈夫よということではないのですが、これを見て、発達障害の子どもたちが非常に増えてきてます。発達障害の理解については、私達大人でも難しい子どももうまく理解できてないと思う。もしそういう子ども達がそういう被害を受けているのであれば、子ども達に対するそういう発達障害の理解に対する何か手立てが必要かなと感じましたので質問です。

北村教育長：今回、報告に上がっているこの小中のケースについては、発達障害は関係なかったようです。ただおっしゃいますように、発達障

害の子ども達の日常の色々な行動については、もっともっと理解が必要だし、先生方も実際まだ十分ではないと思います。この子は特別支援学校適だから特別支援学校に行かなくてはいけないのではないですか？ どうしてこういう子どもをうちの学校の特別支援学級で抱えなければなりませんか？ という意見もまだまだ出てきています。これは、保護者の承認が得られなければ通れませんから受けざるを得ないわけです。その中で、出来る限り最大限の努力をして、いわゆる合理的な配慮ということで、子どもの自立支援をしないといけませんけど、そういう意味で今下田委員さんがおっしゃったように、もっともっとそういう障害を抱える子どもの理解については、指導者側の研修が必要です。

下田委員：本当に土曜日、日曜日続けて発達障害の研修があります。土曜日は白石町で、日曜日は佐賀の教育会館で私も参加するんですけど、それを見て白石の先生どれくらい関心持って参加していただけるかと思っております。

大串委員：やっぱり議会のところで、学校のトイレの洋式化の件で、単なる洋式化の件だけでなくウォシュレットの件も出てきたでしょうか。

北村教育長：いえ。ウォシュレットの話は出てないです。

大串委員：今、新しい新築の家などは、ウォシュレットも増えてきているわけです。うちの施設は、20年前から洋式は洋式ですがウォシュレットではなかったわけで、利用者の方からウォシュレットほしいということで、一部ですが即ウォシュレットをやったわけです。だから、学校についても将来、当然、洋式をやる。改造していくのであったら1つか2つは、ウォシュレットも入れておいた方がいいのではないかという気がしました。これは、予算との関係になりますので全部とは言いませんけど。1つか2つか学校内で入れておいた方がいいのではないかと思いました。

北村教育長：いくつか車イスなんかで入れるトイレがいくつかはありますが、そういうところはウォシュレットにはしてはありますが、とても十分なところまでは。

#### 4 付議事項の協議 10：45～

##### 付議17号

##### 白石町教育功労者の推薦について

白石町教育功労表彰規程及び資料に沿って先月に続き、今回推薦の1名について説明。

## 委員全員承認（付議17号）

### 5 その他 10：48～

#### （1）平成29年度白石社会体育館改修工事請負契約について

稲佐委員：建具の方で、窓ガラス入れ替えですけど、いわゆる耐火ガラス、強化ガラスを使ったわけですね。

土井係長：3mm厚のいわゆる強化ガラスです。

#### （2）7月行事予定表

北村教育長：7月26日に第1回の総合教育会議というのが入っています。これはご承知だと思いますが、新しい教育委員会制度の中で入ってきたもので、いわゆる自治体の首長さん、町長さんが教育問題について現状はどうなっているのかとかというのを確認されるような会議になっているのですが、町としては、年2回程度標準的に実施しようということですが、昨年度はあってないということで、本来町長さんから召集となりますが、今回教育委員会の方からお願いいたしました。中身については、まだ細かくはつめてませんが、一つ目は、コミュニティ・スクールを全校的に全町的に実施をしています。これは、田島町長の町づくりの公約の中にもあります。人間関係が希薄になっている中でもっと円滑に進むように。一応1年たって、どんな実績が上がっていて、今後どういう風な方向に進もうとしているということの現状報告になっていおりますけどこれが1つ。2つ目が、前にこの回でも取り上げましたけど、福富小中学校の小中一貫教育について、今、2年間の研究の2年目で鋭意頑張ってくださいしていますが、研究が終わった後にモデル校としてのスタートをするのか、するとすればどのような課題があるのか、そのためにどんな準備をしなければいけないのかというのの意見交換等になるかと思っています。ということで、午後からこの前に教育委員会をして、終了後に総合教育会議ということで、この日は少し時間長く参加していただくことになるとは思います。よろしくお願ひします。

#### （3）通学路点検結果について

大串委員：六角小学校の揚田、白石高校の前の道路と佐農の前の道路の交差するところ。白石高校からその交差点までは広がっているんですが、ただし、直前で拡張できてないです。あれは、拡張される予定、めどはついてますか。

瀬戸係長：今年されます。

大串委員：今年できますか？

瀬戸係長：あそこは、ちょっと小屋が移転にかかっていたということで、2年ほど交渉を重ねてご了承を頂きましたので、昨年12月に解体を頂きまして、あと電柱がですね、九電さんの電柱ですが、NTTさんの線がですね、地中埋設で入っています。小屋から佐農の方まで、あれがだいたい700軒くらいの電話線が埋設されているということで、土木事務所の占用手続きとか、あそこは県道ですので、そういったところと、電柱やさんも、だいたい半年はかかるという話です。電柱を1本動かすのに、そういったもので工事まで含めたら、あそこは農地ですから稲刈り後しか工事ができない。どうしても工期が10月以降で、来年の3月までかかるということです。一応あそこは出来ます。

松尾委員：確認ですけど、福富の住之江の444の通り今も改修予定になっているんですよね。郵便局のところからセブンイレブン前のくらいまで予定として入っていますよね。

瀬戸係長：土木事務所の方でおそらくそうだったと思います。私も建設課を離れていますのでその情報は建設課に確認しないと分かりません。

松尾委員：昔から危ないところが何箇所かあるのでですね。

瀬戸係長：拡幅の話は出ていましたので。

松尾委員：郵便局のところは、少し広げるという話は私聞きました。

瀬戸係長：郵便局から公安道路とって、元の宇部生コンさんですかね、あそこまでは広げるという話はありました。

下田委員：六角小学校の白石保養院前の踏切りですが、1年生が学校に入っただけのことなので4月のことなのですが、遮断機が下りた時に下校時と重なっていて、1年生の女の子が遮断機を触りに行った。危ないと思い声をかけようとしたら、上級生が引っ張って戻してくれたが、あそこを見ていると一部が地面の色が変わっているが、他にもあるような、足跡の止まれの表示があるところがあるが、ああいうのがあった方がいいのではと見てたんですが、今まで事故もないので、学校でちゃんと指導はされてるとは思いますが？

川畑係長：現場の方は、青とか赤のカラー舗装で分かり易く踏切りのところはしていただいているところで、止まれの丸を書いて足跡の方は、たぶんPTAの方でしていただいていると思うので、六角の小学校の教頭先生あたりに確認をして、もし対応ができればお願いしたいということです。

大串委員：しかしPTAが出来るのですか？そういう表示を？いじれるのかそ

う簡単に道路標識というか。違うところはP T Aで？

下田委員：北明小学校は、P T Aでされました。

瀬戸係長：正式には、土木事務所に許可をもらわないといけないと思いますが、地元のP T Aから許可もらってくださいというわけにはいけなんでしょうからこちらで掛け合って、施工をだれがするのかということになりますけど。ある程度溶かしてしないと普通のペンキでは塗れない。特にカラー舗装の上は剥離しやすいのでそれなりのものをしていないといけないと思います。

川畑係長：例えば、公安であったり、土木事務所であったり、町の建設課の事業ですると色々な縛りがあって、ここには止まれの表示ができないとか線だけならいいよとか要望をあげてやってもらっている分もあります。その中で、よそはP T Aの自主活動的にそういうのを待ってられないということでやられているということをお話を聞いておりますので、その辺の動きをまた六角小学校の方にお聞きして報告できれば、報告したいと思います。それと、全体的な部分で、建設課の方で対応する部分につきましては、7月から随時予算との絡みもありますけど、発注を行って改修をしていくという話ですので今後になります。県の部分につきましては、一部もう対策をさせていただいている部分もあります。

大串委員：さっきの六角小学校のところは、是非お願いいたします。現実、下田委員さんの話でそういう事が起きているということですので、先生もそこにずっと張り付いて指導する訳にもいかないでしょうからよろしくをお願いします。

(4) 小学校空調設備（エアコン）設置について

(5) 小中学校プールについて

松尾委員：他の学校は？その白石小学校以外の学校というのはどういう。

吉岡課長：他のところはですね、まだコンクリートのところも残っておりますが、ステンレスとかそういう風な他の工法でしたので、このガラス繊維を使ったものはなかったのが問題なしと。須古小学校、白石小学校も本体そのものもこのFRPですが、そこは塗装をしてあって、その塗装がステンレス並みの硬さがあるということですので、本体そのものは何ら露出ということにはなかった。ただ、この部分だけが塗装ではなく、圧縮したものをそのまま乗せてある。同じFRPでも製造の仕方の違いでの原因でありました。

稲佐委員：塗料のことが出ましたので、劣化というか、いわゆる老朽化というか、現在使われている、有明中学校なんかはありませんよね。プー

ルは、隣のふれあい郷を使ってやっているわけですけど。少子化に伴って、プールが使用できないような状況は出てくる可能性は重々あると思います。指導要領等については、まとめ取りして水泳指導をすればそれでいいですから、年から年中プールしなければならないということもないし、例えば、ふれあい郷があるからそこを利用すれば、白石中学校もほとんど使ってないのではないですか。ですから、そういったところの処理とかありますと、また莫大な金がかかってきますし、ですから、プールの件もゆくゆく水泳指導というのでも考えながらやっていかなくはならないのではないかという気がします。管理の問題もあるけれども、ゆくゆくはどうなっていくか、福富中学校はプールありますけど、ほとんど使ってないのが現状ではないかと思います。

吉岡課長：私共も、施設担当の瀬戸係長と私が4月きまして、まず学校をということで、4月3日に見て回ったのですが、一番傷んでいるのがプールで、どうしても使用頻度が低いものですから、後回しになってしまいますから、だいぶプールが傷んでいるなあと、これをどこまで維持していくのかというのが非常に課題だと思っております。

稲佐委員：思い切った対策をして、例えばふれあい郷に輸送しながら、その時間帯何時間と決めてあれば、その時間帯だけ輸送して授業終わればそれでいいですから、そして、向こうにはインストラクターもいるし、だから、割とそっちで賄えるかなあという気がしています。

#### (6) その他

稲佐委員：これは、うちら辺というより全体的だと思いますが、最近スマホとかラインとかですね。保護者への意識付け。それも必要ではないかということを感じました。というのが、私のところの知り合いの保護者さん、お母さん同士でラインで〇〇先生がこんなことを言った。あんなことを言った。といって一斉に散らばると言われたが、それはいわゆる個人の電話、いわゆるプライバシーにかかわる部分なので私も何も言えないがということで濁したが、何かラインでつながって、それが束になって、意見となるかどうかわかりませんが、噂的なものが広がったりしてですね、やはり〇〇学校の〇〇先生と、そこまで名指しになっていくようなことがあっているみたいなので、こういうこと注意しないといけないと思って、なんかいい方法ないかと思って、啓発活動的なものしかできないと思いますが。突っ込んで、「プライバシーでしょう」と言われればそれまでですから何も言えないでしょうけど、子ども達ばかりにラインを使うな

等とやっておりますけど、親にもそこら辺のことをやっぱり知らせる必要があるかなあということを感じました。

北村教育長：奇しくも今朝、主任と同じような話をしていましたが、町内の小学校で今おっしゃったような事案が発生して大きな問題になっているわけではありませんが、学校の先生の発言、言動について、子どもがよく思っていないことを、「子どもがこういう風に言っている。」ということで、一斉に流されている。それで多くの保護者がそれを共有することになって、「これはどういうことですか」ということで、学校が対応せざるを得ない状況になったということで、そこに子どもが言っていることが本当かどうかという事実確認もないし、「こういうことをうちの子どもが言ってますけどどういうことですかね。」というような、そういうこともしないままに、こういうことを子どもが言っていると一斉に流されている。まったく子どものレベルで情報の拡大拡散を図っただけで、事を大きくしてしまっている。今、PTAとも連携をしてということで、郡のPTAの会長さんが役場にいらっしゃいますので、教育委員会と学校と一緒に、特にスマホとSNSに関することを対応しましょうと。もうひとつの市町でやっている話ではないですよ。これは、子ども達にどうするかということばかりで共通のアンケートとかは、今準備を進めていただいているところです。今おっしゃられたこと、それから今朝話に上がったこと、やはり大人がどういう認識を持っているかということもつき進めないと、まったく無批判ですね、考えなしに流行りだから、便利だからというレベルのままやっちゃってしまっている部分があると思います。同じことを今朝話していたところでした。

稲佐委員：私は、その時は、プライバシーの領域のため何とも言えない。事実かどうか分からないことなので、だからそういうことに乗せられないようにしないといけないよということで帰られた。

北村教育長：発信される前に、親としての判断とか、大人としての判断というひとつのフィルターを通ればいいのですが、まったくそれ無しに、一番発信元の現状をそのまま拡散しただけ、だから事を大きくしている。その辺りが非常に残念です。

松尾委員：それは、もう問題解決したのですか？

稲佐委員：私のところに来られて、その後は私の方にはもう相談には来られなかった。その後は、多分学校がそれなりにされているのではないのでしょうか。対処はされてると思います。

北村教育長：私が話した事案に関しましては、学校名は申し上げますけど、結局学年保護者を緊急に開いていただいて対応していただいたということで終わったようです。ただ、学年保護者会までしないといけないような事案だったかというところです。

稲佐委員：サッカーのコーチが生徒を突いていたのも隠し撮りをしているのでしょう。

松尾委員：あれは、生徒がしていたのでしょうか。

稲佐委員：あれも、配信されてコーチが突いて暴言を吐いたということです。

下田委員：モラルの問題ですね、子どもだったら学校で教育の中で教えていけるのでしょうか、親にそれをどう伝えるか？非常に難しいですね。それこそPTA総会とかですか。

北村教育長：コミュニティの中でも家庭の中でも、もっと対話とか触れ合おうと言っていますが、現実には食事中でも操作してる。私も外食に行くが、家族で来られて、祖父母とかこれを幸いに色々話されればいいがみんな操作されている。ただ、食事しに来ただけみたいに、本当に日頃出来ない話をすればよいのにと。現実にはそうです。もっとふれあいの対話をとっていますが。

稲佐委員：教育長もおっしゃられるように、親さんも情報が入ってくれば、次のお母さんに送られる。鵜呑みしてそのままされている。どこが、どこまで本当なのか分からない。信憑性もない。

次回教育委員会の決定

教育委員会 7月26日（水）午後13時30分～

6 閉 会 11:24

吉岡学校教育課長